



<2020年度関東学生アメリカンフットボールリーグTOP8第3節>

日時：11月15日(日)

時間：14時45分キックオフ

場所：アミノバイタルフィールド(東京都調布市) 無観客試合

対戦：明治大学グリフィンス vs 早稲田大学ビッグベアーズ

結果：終了 28-21 (1Q 7-0、2Q 7-14、3Q 7-7、4Q 7-0)



<フィールド・レポート>

明治大学グリフィンスは、スタンドに掲揚された大応援旗ビッグユニフォームを背に、始めから攻めの姿勢を見せた。

第1クォーター、グリフィンスは最初のドライブで「3&アウト」となり心配したが、その後、攻め続け、TB#29山田大葵(4年・関西大倉)によるTDで先制点を獲得した。第2クォーター、QB#4西本晟(4年・箕面自由学園)から、オープンサイドへするすると抜け出してフリーになったFB#43伊勢隆太(4年・国際基督教大)へのパスが決まり、そのままTD。14-0とリードした。早稲田も、ランとパスでTDを決め、14-14の同点で前半を折り返した。

後半、第3クォーター、グリフィンスは、TB#29山田大葵が、FB#43伊勢隆太のブロックを上手く使い技ありのTDラン。その後もチーム全体で攻め続けた。早稲田はTDランで21-21とした。同点で迎えた明治大学グリフィンスは第4クォーター、QB#4西本晟からWR#7川原田拓実(4年・明大中野八王子)へのロングTDパスが決まり、28-21と再びリードを奪った。結局このタッチダウンが決勝点となり、迫りくる早稲田に、一度もリードされることもなく逃げきって勝利した。関東学生リーグ・早大戦で白星を挙げたのは2011年の9年以来のことです。キッカーK#3埴見拓也(4年・明治学院)は、この日、4本のPAT(ポイント・アフター・タッチダウン)をすべて成功させた。又QBサックが一度もなく、OLオフェンスライン陣の奮闘も際立っていた。そして、3Q、早稲田のパスをインターセプトしたDB#2野村馨(2年・佼成学園)。早稲田のゲインを何度も止めたDB#23村田幹太(3年・駒場学園)の鋭いタックル。LB#53大西永悟(4年・明大明治)とLB#40久松遼平(4年・関西大倉)のタックルを含め、ディフェンス陣の活躍がこの試合の勝因と言っても過言ではない。攻撃陣も高い球も低い球もすべてキャッチしたWR#11嘉本健太郎(4年・箕面自由学園)。WR#12デコウト大貴(2年・ネルソン・カレッジ)の完璧のレシーブ。TB#22保坂洸稀(3年・都立戸山)のカットランとTB#5森川竜偉(2年・佼成学園)の突進ランでのゲイン。

明治大学グリフィンスオフェンスは、最初のドライブで「3&アウト」となった以外は、コンスタントに進み続け、試合を支配した。オフェンスの合計獲得ヤードは、319ヤード。その内訳はパス160ヤード、ラン159ヤード。ファーストダウン更新18回は、パス8回、ラン9回(反則1回)と見事にバランスのとれたオフェンスで、サードダウンコンバージョンでは8/13、62%を記録した。

※用語解説:「3&アウト(スリーアンドアウト)」1つのシリーズで、攻撃側が一度もファーストダウンを更新できず攻撃権を失った時に使われる言葉。